



今月は、内分泌・代謝内科から糖尿病治療について、ご紹介させていただきます。対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

## 1型・2型糖尿病に対する入院・外来診療を拡充します

糖尿病治療に関しては、近年、SGLT2阻害薬や経口GLP1受容体作動薬、インスリンとGLP1受容体作動薬の合剤など新しい薬が次々と発売され、血糖コントロールや合併症の予防に非常に有用であることが報告されています。

しかし、コロナ禍の中、高齢患者の「ひきこもり」と勤労世代患者の「在宅勤務」は、運動能力の低下、フレイル、肥満などの新たな問題を引き起こしています。また残念なことに、検診などで生活習慣病を指摘されながら放置したり、治療を中断してしまい、合併症が非常に悪化した状態で病院を訪れる患者さまが増加しており、多職種での療養指導を適宜行う必要性がこれまで以上に高まっていると感じております。

当院では、HbA1cが8%以上の方、初回指摘の糖尿病の方、合併症が進んでいる方に対しては糖尿病教育入院（1週間パス・2週間パス）をお薦めしておりますのでお気軽にご紹介ください。もし患者さまの事情で入院加療が困難な場合でも、外来の糖尿病センターにて合併症検査やインスリン導入・GLP-1受容体作動薬導入、自己血糖測定指導が可能です。また、管理栄養士による栄養指導、透析予防指導に関しても随時受けていただけます。さらに、持続血糖測定モニターを用いた血糖日内変動検査も行っており、患者さまの行動変容を促したり薬物療法を最適化することに役立てております。

本年4月より、1型糖尿病患者さまに対するインスリンポンプ専門外来も開始いたしました。インスリンポンプ治療に興味のある1型患者さまがおられましたらぜひご紹介ください。

## インスリンポンプ療法

インスリン分泌の枯渇した主に1型糖尿病患者さまの治療は、インスリン療法が原則ですが、インスリンの投与方法には、インスリンを1日1回～5回注射で皮下に注入するインスリン注射療法と、皮下に留置した細くやわらかいカニューレを通して持続的に注入するインスリンポンプ療法（Continuous Subcutaneous Insulin Infusion[CSII]）とがあります。当院ではインスリンポンプ療法を積極的に行っており、本年4月からインスリンポンプ専門外来を開設しております。

# インスリンポンプ療法とインスリン注射療法との比較



一定量が一度に皮下に注入されます      一定量が少量ずつ皮下に注入されます

	インスリン注射療法	インスリンポンプ療法
インスリン注射回数	1日4回(間食あれば5回)	2～3日に1回(注入セット交換)
使用するインスリンの種類	持効型+超速効型インスリン	超速効型インスリン
基礎インスリンの調整	時間帯ごとの調整困難	時間帯に合わせて細かく調整可

## SAP(Sensor Augmented Pump)療法

SAP療法とは、パーソナルCGM（持続血糖測定）機能を搭載したポンプ療法です。



CGM (Continuous Glucose Monitoring)  
持続血糖モニタリング

+



||



低血糖を予測してインスリン注入を自動的に一時停止または再開  
⇒低血糖リスクの軽減につながります。

今後、高血糖に対する自動補正機能付きのインスリンポンプが発売される予定です。

1型糖尿病患者さまのインスリン療法にも多様な選択肢があります。

対象患者さまがおられましたらインスリンポンプ専門外来へご紹介いたしますと幸いです。



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。  
何卒よろしくお願いたします。